

いなづま

発行所 函館地方電気工事協同組合

住所 函館市新川町99番地

編集人 荒井孝一

印刷所 有限会社 豊國堂印刷



〔組合だより〕

愈々秋も深くなり、蜻蛉とび交う昨今と云いたいところですが、函館市内ではなかなか「とんぼ」も見られなくなり物足りないこの頃となりました。

組合員各位には最繁忙期を迎えるに多用の事と推察致します。さてその後の組合活動の主なものについて、要旨をご報告致します。

一、第三、四回役員会の主要議事について

1. 連合会役員会報告抜粋

◎開道百年記念技能コンクール開催について

之は道及技能訓練協会が主催して実施されますが参加団体は、電気工事関係は旭川、札幌、室蘭の三団体のみ。

来年よりは、技能の向上化に役だたしめるため毎年この種のコンクールを開催することになりました。

之は若年組青年組壮年組に分けて行うこととなる模様ですが細部はその折ご報告の予定です。

◎耐圧試験装置について

前号でお知らせ致しましたが専門研究委員長の泰平電気伊東理事より見積り、他の関係事項について報告がなされ利用面及運用面等よりみて更に北電試験装置の利用度合等を詳細に検討した上、その設置時期を決めることが適當であるという結論に達しましたのでもう暫く検討期間をおくこととなりました。

◎災害速報について

最近電気関係事故が色々発生しています

電気災害については、本紙に紹介しますが組合掲示板にも速報綴を用意してあり、又緊急なニュースは電話又は速報として急送することとなりましたので夫々十分留意下さい。

◎事業小口資金融資制度について

前回役員会で研究を命ぜられた猪股融資対策委員長より研究結果の報告あり次いで検討の結果融資枠を参百万円とするに決定、貸付規約及運用の方法等については更に臨時に「審議委員」を指命して8月20日の第4回役員会に報告することとなる。

その後8月5日及8月8日委員7名を指名の上審議を重ね8月20日午後1時より第4回役員会を開会し次の通り決議されました。

◎貸付制度の運営の責任は理事会が之を負うこととする。

◎臨時総会を開催し本制度設置について報告提出することとした。(10月15日午後の予定) 本件については更に10月1日第六回役員会を招集し詳細検討の上速かに各位に通知致す予定となりました。

◎組合規約一部改正の件

規約第十七条中

(-)組合員死亡の場合

弔慰金壹万円也の外花輪を供し新聞に公告する。(公告をしない時は、香華料を贈る)

(-)組合員の父母妻子死亡の場合:

弔慰金五千円也の外花輪を供する。

(-)組合員の従業員死亡の場合

之は殉職の場合にのみ適用し弔慰金五千円也及花輪を供する。

四組合員罹病にして相当日数加療の場合見舞金五千円也とする。

尚第四項但し書きの見舞金の最高は拾万円とする。(天災、火災の災害及組合員の業務上の死亡の役合等)

二、第五回役員会(9月17日午後1時)

1. 災害互助会について

希望者は本会に加入していますが損害賠償訴訟金充当の目的より更に給付種類の拡大については既に皆さんより希望のあるところですが、全電工連役員会で更に前向きで検討するので、当協組としても之を支援することとなりました。

2. 組合創立式拾周年記念式典について

組合が創立されてより早や20周年を迎えることになりました。

(道認可昭23.11.5.)



◎式典の日昭和43年10月15日(火)駅前五島町商行事の細部は実行委員を挙げて研究を命じ10月1日の役員会で決定しますので決まり次第ご通知旁々ご案内致します。

◎子メーターの件

既にご存知の通り未検定のものは明年6月末日までに検定を受けなければなりません。

詳細は10月15日の総会の折資料を配布の上ご説明しますが検定済子メーターを次の通り組合に用意してありますのでなるべく多数取りまとめて注文下さい。

◎子メーター。20(10) A10A計100

△組合販売価格式千円也

△組合員に限る。

以上が第三～五回役員会の主要議決事項です。

事業内訓練所関係

◎学科訓練は、8月夏休休講となり銳気を養つておきましたが、9月1日訓練協会支部主催の体育大会に参加、ソフトボール、卓球に訓練生が大いに活躍しましたが練習不足のため卓球で個人戦第五位(3年松橋)入賞に止りました。来年こそはと学年主任熊谷、森谷両氏が意気こんでいますのでご期待を乞う。

尚参加訓練生中当電気工事訓練生は他業種のそれと比較し、「比較的に頭髪や服装も端正であったことは我田引水になるが自認せざるを得ない」という参加指導員

諸子の声を耳にしましたが平素之を気にしていた訓練所長以下首脳部も今后増々この方面の指導に留意することを申し合わせた次第です。何分日常職場におかれても、機会をとらえ、よろしくご指導下さい。

◎最近訓練生でバイクに相乗してスピードを出し過ぎ四輪車に衝突一人死亡一人負傷の事故を起しましたので、

夫々十分注意を喚起すると共に、日常の管理指導には細心の注意を払われたい。

◎9月15日快晴に恵まれ9時出発訓練生及び導員40名が所属事業主

提供の車に分乗し、直路大沼じゅん菜沼附近に向い10時より、野外飯盒炊さん訓練を行って中食のち快晴の大沼公園でボートに、散さくに、秋のすがすがしい空気一杯すい乍ら互に友情を深かめ日常の事を語らい指導員諸氏との接しよくを深かるなど人間形成と



・・・ 趣味と実益を兼た競輪を楽しむ ・・・

太陽電気工業所 寺本源佐久

太陽電気工業所寺本源佐久氏に登場願う。十年ひと昔といいますが寺本氏が競輪を始めてからひと昔たちました。一周四百米のアスフルト走路、白黒赤青色どりどりのユニホームを着た選手達が銀輪を駆けて風の様に私の前を過ぎ去る。ゴール迄あと六百米!ここで所謂「ジャン」が鳴る。

選手達のスピードは更にピツチを増してホームスタンド前を矢の如く走り去る。当時は世相も悪く競輪ファンはか

れこれ言れ、人目につかぬ様にファンの血を燃やして居ましたが、昨今はブームを呼んで、競馬は記憶の賭け、競輪は推理の賭けといわれます。いろいろと推理しその予想通りになつた時の楽しさは、競輪だけの持つ醍醐味だと思います。

寺本氏も競輪を始めた頃は只々賭に酔い、その魅力に夢中になつて、いくばくかの金を手にしては喜び又、あり金をすれば、放心して帰るという様な毎日でしたが、昨今は、本当に競輪ファンとして楽しく健康的に遊ぶ様になりました。

青空と緑の芝生からオゾンをいっぱいに浴びギヤンブルの熱っぽい雰囲気に呑まれず、自分のペースで競輪を愉しみさえすれば、本当によいレクリエーションだと思います。(佐藤輝)

御用心!

先般某業者が防犯灯工事の作業にともない、たまたま公道に植樹の支柱木を伐採した処、所轄公署の係員よ

り無断伐採による補償1本あたり4000円を言渡された。業者いわく「頭を切つて足が出る」ご用心! ご用心!(平松)

8月21日、昨夜來の風雨は、治まる事を知らずに益々はげしさを増し、我々取材班の出足をぶらせました。

しかし今回は江差地区の皆さんを取材すべき準備がありましたので、風雨について、午前9時17分発「準急えさし」に飛乗りました。

悪い予感が的中して、木古内駅にて立往生をしてしまいました。

窓を打つ風雨は、旅を急ぐ人々の不安をかりたて、車内にはざわめきが起きてきました。車掌のアナウンスは、江差、松前、両線共に不通、開通見込は不明との事。なおもはげしく降る雨は、追打をかけるように、函館えの道も破壊てしまいました。我々取材班は、協議の上木古内地区を取材する事に予定を変更し、吹き荒れる風雨の中を、井上電気さんまで走りました。

江差地区的皆さんには、次期の取材までお待ち下さいますようおわび申し上げます。木古内地方は、渡島半島の西南に位置し津軽海峡を眺めつつ、道南のローカル線で西へ下って1時間、江差、松前えの分岐点国鉄木古内駅がある。

此の周辺は、農漁林の三業を上手に組合せて、町村の経済をまかなっておりまます。

木古内町は、近在5ヶ町村の唯一の商業の町で、駅前メンストリートの両側と、左右の国道沿には、近代化された商店が立ち並び、夜ともなれば、「親不孝通り」なるネオンの町も、都会的センスとムードをかもしだし、近在の若者達の遊び場になるのである。

北海道銀行木古内支店の営業成績は、札幌薄野支店に次で、全道第二位だそうで、如何に近在住民がお金持ちであるかと言う事がわかります。

では組合員の紹介といきましょう。

木古内と言うと、古い組合員は、今は亡き横井徳次郎氏を思い出す事でしょう。

横井氏は、此の地区的電気工事の草分けで、船舶電気から、強電に切替えて、現在の横井電気商会を創立したのである。

横井電気商会 横井利夫氏 利夫氏は2代目店主で、若冠23才で故徳次郎氏の後を継ぎ、現在は弟さんと協力して、北電外線工事を主力として活躍をしております。

利夫氏は、電気業界の長老、本間氏通称「ライオン」さんに手ほどきを受け、きびしい修業にも負けず今日の花を

咲かしたのである。現在自分が活躍出来るのは、本間さんのお蔭であると話しています。

(有)光南電気 横井雄吉氏 雄吉氏と利夫氏は、いとこであり、故徳次郎氏より指導を受け独立し、現在は弟さんと協力して一般工事に活躍しております。

雄吉氏は、駅前メンストリートの左中央で、奥さんが経営する食堂と、電気工事の2本立てで、現在近代的な店舗を新築中である。完成は9月末との事で、相変わらず大きな体をゆすぶり乍ら、大声で笑っておりました。

井上電気商会 井上幸二郎氏 井上氏は、秋田工業学校出身で、日本鋼管、沖電気、東芝電気と一流所へ勤務、昭和17年召集を受け南方戦線へ出動、そして終戦、昭和20年12月、兄さんを頼って来町昭和24年、故竹村氏が経営する北日本電建KKの出張所として、発足現在は3名電工を有して遠く函館市内、松前方面まで出張工事をしているそうです。8月末に完成したと言う新店舗の事務所では、奥さんが電話の取次をしておりました。

川又電気商会 川又邦司氏 川又氏は最近組合加入をした方ですが、先輩組合員の指導の元で、仲良くやっております。此の日、

雨の被害が出ているので、自作水田が心配とかで、見廻りに走り廻っておりました。

此處木古内町より車で20分知内川を利用した、広い米作地帯の中心に知内町があります。知内町には、吉本電気商会吉本長信氏高橋電設工業所高橋勝英氏の両氏が活躍をしております。

此の日、何回となく電話連絡を取って戴きましたが、風雨はげしく道路は決壊し、配電線関係の故障修理等で、取材会議に出席して戴く事が出来ませんでした。しかし、米作地帯を両手にかかえたここ知内近在の電気工事は、両氏の一手販売で、市内組合員には、うらやましい程の活気を見せており、どうやらふところ具合も暖いようです。

今回地方よりも、5回を重ねましたが、どの地区的組合員も、組合協定の値段を守り、余裕のある事業を営んでおられる姿を見て、我々取材班は、市内組合員も、白主的に協定値段を守り、団結して電気工事の最高の技術を最高の値段で販売するように、努力をするために、大いに「いなづま」を利用して、市内組合員の奮気をうながしたいと思っております。

午後8時30分、災害復旧一番列車で、函館に帰るべく雨の中を駆け急ぎました。最後に木古内地区組合員の益々御発展を願いつつ此の取材を終ります。

◎秋の交通安全運動について●●●●

来たる10月11日から10日間全国秋の交通安全運動が実施されることになり、本道におきましては、昭和43年秋の交通安全道民総ぐるみ運動を実施するにあたり、スローガンを掲げ、事故防止に協力致し、期間中0への目標をかかげましたので、私共電気工事店の運転手においてもスローガンを掲げ期間中守ってもらいたいものである。

重 点 事 項

- 歩行者保護の徹底
- 踏切通行の安全確保
- 無謀な運転の追放
- 追突事故の防止

◎ 運行管理及び安全運転管理の徹底

上記は10月11日より10日間の事項である。

1日目標による運動の取組に成っておりますので、各店ごとに行うように願います。

- 心身を正しく整えて運転する日
- 交差点における安全運転をする日
- 追越し、追抜き、割込み、禁止を徹底する日
- 徐行、1時ストップを励行する日
- 点灯、減光等正しい灯火操作を励行する日。

(佐々木三男)

「ふるさとは遠くにありて」

泰平電気商会 伊藤幾郎



はげしい生存競争と目まぐるしき迄に押寄せる文明の波にともすれば心のふるさとさへ失いがちの今日この頃ふるさとの山を持つことは幸せと思う。

年少の頃函館山のふもとに育った故か、函館山には殊の他、愛着を感ずる私です。古びたお寺の石垣の続く落付いた街並み、樹の間よりかいみる港の風景、その向いに連なる

渡島の山々にくっきりと駒ヶ岳の座っている姿、この山この海のある故か私はこの地に再び帰って来たのでした。

函館山のふもと西のはしに称名寺というお寺がある。明治40年の大火で焼失して、その頃の本堂は仮の木造建でした。寺の裏は段々山に沿うて墓地が連なりその高台にある納骨堂の白壁の落書が夕日に映える頃子供等は遊びつかれて家路を帰って行くのでした。その裏山はその儘函館山につづいていて、夜な夜なむせび泣くという伝説のある夜泣石から上は要塞地帯の鉄条網がしてあつた。子供等は時折警らの兵隊の目を盗んではこの網をも越境した。そして秋には、くり、こくわ、山ぶどう、など子供は退屈しなかった。子供等は平和にのびのびと育っていた。そしてそれぞれにふるさとを巣立って行ったのでした。戦争がはじまって私共は、或いは再び見ることができないかも知れない、この山を連絡船のデッキにもたれ何時までも船室に入らない眺めた日もあった。

戦争が終って人々は思い思ひに故郷の地をふんだ。大陸から内地へ帰って来て著しく感ぜられる事は日本の風景の美しさであった。汽車の窓から見を家々の屋根は雑巾でぬぐったかのように感ぜられたのでした。

戦後、山ははげしく変貌した。要塞地帯なる山は開放され登山道路が出来て、『ローブウェー』が引かれ、すって落ちそうな不自然な建造物が建てられテレビのアンテナが林立した。

日一日と道路工事があの緑の山肌をけり、醜い赤土が処き

らわす露出した。何んとも言へぬわびしさに腹立しさを感じられるこの頃です。

函館山の景観はたしかにすばらしい。それは自然のすばらしさであるはずです。

観光、勿論結構、しかし北海道の観光、それは自然そのものでなくてはならない。快適なドライブを味はいたい者は高速道路を走ればよい。

石ころ道を額に汗して登る山道を残して置きたいと思うのはあながち私一人ではないと思う。

この夏10数年ぶりで恵山に登った。あの下海岸の道路はいただけないにしても登山道路が石くれ道で殆んど昔の儘の道路があり火口から頂上迄は人間の足以外には登るすべもない自然の岩場は全く美しい限りであった。

観光ホテルもあくまで山の自然をこわさない山のふもとにあるのはうれしい。これこそほんとうの北海道の観光と言えるのではなかろうか。

北海道の開拓者達は入植以来百年、涙ぐましい努力の末今日の土地を開拓してきた。そして今この美しい田畠の中に立つとき森も林も残すことなく開墾した故にふるさとをも残すことを忘れたむなしさを禁じ得ないと述懐した人がいた。石狩の平野の農家のことである。札幌と共に冬季オリンピック開催地の最有力な候補地であったカナダのバンフでは自然を保護しようとする地元の強い反対があったと聞いてその美しい勇気は敬服に値すると思う。

今後函館はまだまだ変わってゆくことだろう。特に青函トンネルの開通する暁にはどのように変わってゆくことだろうか。一部為政者は楽観的ムードで見る向きもあるが、すばらしい観光資源を頼りにした物乞い的な根性では函館の前途は楽観をゆるされないとと思う。

特異な産業を持たないこの地に適した産業を興すことが焦眉(び)の急と言わねばなるまい。

長野、郡馬、新潟県等を他山の石として為政者ばかりでなく市民こそって考える秋ではなかろうかと、しみじみと思うと同時に、短兵急な態度でなく、十年、二十年いや百年の未来への考慮が必要であろう。勿論それは私共の世代ではないかも知れない。然し私共は勇気を持ってこれを為し遂げねばならない。そこにこそ限りない前進が約束されるのである。函館山は黙々とそれを見守るであろう。

(伊東)

【木古内・知内電気業界の沿革】

光南電機商会 横井雄吉



当地方業会の沿革とか歴史と云っても何か面白い感じですが、振返ってみれば昭和5年に鉄道が木古内まで開通し、更に数年後松前線が開通し、更に木古内より、松前線に乗って二つの駅が知内となります。つい数年前まで混合列車で各駅停車貨物の積下ろしをしながら函館まで約2時間位の行程だったとおぼえています。今では準急が走るようになり約50分程にスピードアップされました。さてその頃の電気業界はと云へば余りよく記憶しております。

りませんが何でも三村電気利用組合「木古内村知内村茂別村」とかの名前で現在の自家用電気需用家のよう仕組みで20W1灯位の需用戸数が多くたようです。

各町村役場の一隅に電気部をおき内外線工事、設計、保守管理集金等々全部ここで業務取扱いをしておったようです。現在と比べればその規模において余りにも幼稚でつくづくと時代の移り変わりを感じます。其の後北海道配電となり買収があり、やがて北海道電力と胎動を経て現在に至ったようです。

さて我々業界はと云へば終戦後いち早く北電の請負制度実施に伴って当地方で最初の指定店として営業開始をしたのが横井電気「故横井徳次郎氏」でした。その後木古内に北日本電建の出張所が出来、知内には深田電気の出張所が出来、この頃から電気工業界も幾分脚光を浴びるようになったようです。

以来昭和34年頃まで此のような業界でしたが、時代の流れといいますか要求といいますか、昭和35年に木古内に井上電気・光南電機又本年には川又電気が知内に昭和35年に高橋電設、2・3年後には吉本電気と開店し、現在木古内に四店知内に二店と計六店で近隣の沿線の仕事をしておりますが、郡部のかなしさでどんぐりの背くらべと云ったところかもしれません。

木古内知内ともどもこれといった大きな産業もないのですが工事は皆さん結構多忙のようです。そのせいいか業界内の不和はほとんどありません。割合に横の連絡がうまくいっている関係でしょう。作業量の多い場合等はお互にゆうづうして上手にやっております。時々打合せ会などでよく話し合いますがなやみは從業員の職業訓練所の入所が大変だということです。これが若い人の求人にも差支えが生じてくる一因にもなるようです。近き将来何等かの方法を講じなければと思っております。

何かととりとめないことを書きましたがご笑読下されば幸いです。

工事最盛期の折皆様のご健斗を祈ります。

◆「外協」初秋の十和田え◆

昭和43年度の外線協議会の総会は、9月12日午前9時より、十和田湖畔、十和田荘にて、開催されました。

9月11日午前7時20分発の連絡船で出發奥東北の初秋を尋ねて、八甲田の山腹を通り抜け奥入瀬溪流を右に左にながめつつ、バスは子の口え、秋風吹き渡る十和田湖水を、双胴船で40分、わびしく岸辺に立つ乙女の像も心なしか寒そうである紅葉には、早い時期ではあるが、観光地らしく多数の客が宿泊をしておりました。

参加会員25名は、皆元気で夕食時の宴会場では、津軽美人？を相手に楽しく2時間を過し、静かに更けて行く湖畔の宿はなにかしら哀愁をそぞるものがあります。

今回の総会は現在の外協のあり方の良否が話題となりました。

議長と各人の見解の相違から、意見が続出し終始討論のみにて結論が出ず、近く臨時総会にて調整することになり、役員改選も取止めとなりました。総会席上の意見を拾って見ると、

①北電合理化による外線業者統合に進みつつある第一段階として、特定協力業者の選定が行はれる。

②その結果、期間的に過重なる発註のため電工の手配困難を来たす。

③現在そのため4～5人の電工のグループが大手業者間を離合集散し、工事をなす傾向が顕著となって來た。

④此の事は、原因として第一に考えられるのは、北電工料のあまりに低い金額のため各業者の電工に対する待遇が充分できない事。

⑤この事が各大手業者の協調ムードを破壊する大きなしきりになっている。

⑥然らば強固派の発言は、現在の外協を根本的に建て直して、関係機関に対する交渉権を持ち、強力なる団結の下に、積極的に活発なる運動を展開しようと言う。

⑦柔軟派の発言は、外協は親睦会で、現在のままで良いが、交渉すべき問題を吟味して、組合役員に交渉させ、外線工事の実態説明には、代表者を同伴させよう。

いずれにせよ、外協創立当時は状況が変わっている。

電柱はコンクリートに変わり、建柱は建柱車が建て活線作業は、空中車で行い、停電をなくすためには移動変圧器を準備し、作業工程は発註者が決め、使用材料は猫の目の様に変わって行く。

こんな機械万能時代の大企業が統合整理する合理化の波は、停電時間の短縮となって現われ、活線作業、危険作業の多発をともなって來るのである。

大企業の合理化に合はせて、何百万円と言う機械、器具を準備しなければならない我々業者は、はたしてどこまで追いついて行けるであろうか。

電工の日曜出勤、危険作業増加による手当の増額、電休日作業の電工確保とあ

らゆる問題が未解決のまま、各個に悩んでいる現状である。

今後外線電工の養成を計り、人員の確保になんらかの手を打たなければならぬのではないかだろうか。人力、資力、共に乏しい業者は消えざるを得ない時代が目の前に来ているのである。

1本の矢は折れても3本の矢は折れない。今是に北電発註の年間工事を、仮に『函館外線工事会社』なる所で受取り、現在北電外線協力業者が合併して事業を始めたならば、はたして事業が成り立つて行くであろうか。こんな面も合わせて協議、検討して見る時期ではなかろうか。

約2時間有余の討論は結論を得ず次期臨時総会に持越しとなつたが、腹を据え



て、此の荒波を乗切るために時間をかけて数多くの討論をするべきである。

唯ここで言える事は、大企業の合理化はまだまだ続き益々業者の苦しくなつて来る事を知り、我が家の安泰を願うとともに業界の団結を強固にして、一人の脱落者も出さないよう特に声を大にして此の記事を終ります。

(工藤義)

き合いの良い反面議論を始めたら、自分の納得できない点は最後まで譲らないという頑固な点も持ち合わせており、一時座禅ならぬ臥床三昧の数年を送ったことがあり、文字通り朝昼夜ねてもさめて床の中という生活で、布団をあげて見たら畠がゆか迄抜けていたというから、その間トコトン迄生人を探究したものらしい。将棋は子供の時から始め、いくらか腕に自信があるらしく、花札は連日学校の授業をサボっては寄宿舎で開帖腕をみがき、麻雀は平和断公門前清等の役組という平凡な手で高く和るという、商売の方針と同じく堅実な打ち方である。他面昆虫採集、釣りと高尚な趣味も持っているが、酒は相手次第で量に限定はないようである。特に料理に関しては異常な熟意を持ち、子供の時からあちこち喰べ歩き、これはと思う店には通いつめて、料理人から直々そのコツを聞き出すなど、『電気屋をやめたら喰べ物屋をやりたい。』という程の食道樂である。

一度び調理の話になると尽きることなく、一般家庭の奥さん達はあつ気にとられて只聞き入るばかりである。実家は戦前岡田興行として、弁天座、中央座等映画館を経営し、年輩の呑ん平にとっては昔懐しい日乃出カブエーもその事業の一つであった。現在のローヤルホテルがその場所である。望みが高いのか或は失恋の傷手か未だに独身である。

たまたま結婚話を出ても脇を向いて吾闘せずとしており、グループの仲間からは『函館の七不思議の一つ』といわれている41才昭和2年生れ。(駒井)

【組合員の横顔】

中部電気商会 出町 良之助



出町さんが、千代ヶ岱電停に向いで中部電気商會として開業したのは、昭和35年で未だ日は浅いが、電気工事に於ける経験は20年以上に及んでいる。22年学校卒業と同時に入社した泉田電機商會より独立して、福島町に店舗を構えたのがその始まりである。

当時の経済情勢が幸いして、イカ釣り

漁船を相手に大いに儲けたようだが運悪く福島町大火のため焼け出され、函館に戻る。24年千才電気(現在の太陽電気工業所)に主任技術者として入

り、国鉄関係を始め各種の電気工事を手がけ、学校時代からの友人である寺本さんにバトンタッチをしながらはフリーとして各工事現場の設計監督を引受け自営の足がためをついた。『特に技術関係に興味があった訳ではないが、理工科は微兵延期が認められていたので、兵隊のがれのため』旧制函館中学4年から盛岡高等工業に進み、『当時盛岡は学生と兵隊の街として、吾々には暮らし易い環境であったため、終戦の前后を通して割合のんびりした生活を送って来ました。』出町さんは人付

〔奥様訪問〕

長尾電気 長尾夫人

日本の敗戦がその人の運命を大きく変えて了った、又は変えさせられた、と云う話をよく聞きますが長尾夫人と又長尾氏自身も似たような境遇の御夫婦です。

商船乗組から海軍予備士官と戦時の無理がたたって戦後間もなく御主人が亡くなり戦後の窮乏時代にみどり子を残されて幸せな妻の座をおりた母と子、そしてこれ又樺太は王子製紙恵須取で粒々辛苦十数年の果、敗戦によつて一切の夢と更に事故で奥さんも失はれ幼い女の子を連れて函館へ引揚げて来られた父娘が奇しき縁で結ばれ以来二十有余年、現在の平和な家庭を営んでおられると云う何か小説の筋書のような物語です。



お二人の間に出来た末のお嬢さんも来春は高卒でもう市内の銀行への就職も決った由で、既に長女は結婚され長男も商船会社へ就職してまる三年との事です。成さぬ仲の三人の子女の養育には並々ならぬ御苦勞があったと思はれますか、現在の奥様の表情は「一陽來復」と云つた明るい笑顔です。

以前の生活が平凡な給料生活の主婦であったので始めてこの商売の手伝いをするようになってから

御主人の話を聞いて、例へば五万円の仕事と云へば五万円そっくり利益のような錯覚を起し勝ちであったが「考えてみると資材代や人件費その他で殆ど残らないのですよね」と大笑いされる。「得意先からの電話は逃されませんので買物や入浴等もおちおちしておられません。主人不在の折の外出の時はメモに所要時間と行先を書いて出て行きます」「都合悪く主人不在の時に限って大事な電話が掛つて来るのです」御主人は行先をはっきりと教えないで出て了うそうで仕方なく前日やその日の朝御主人と電工さんとのやりとりを傍でよく聞いて置いて行先の大体の見当をつけるそうです。当然の事乍ら商売第一と云う奥様の心構えが感ぜられます。「日中たまたま近所の奥さん達が遊びに来て話が佳境に入った頃たまたま御主人が外出先から帰られると遠慮して早々に帰つて了うのでつまりません」しかも御主人は不定期に入出されるので遠くへは出掛けられなく、泊り掛けの旅行等は今のところ行けないとの事です。来春あたりはお揃いの旅行も計画中の由です。

以前に奥様が何か職をお持ちのように聞いていたので此の点を伺うと、最初は御自分の着物を染めに頼んだのが上手に仕上ったので知人に薦めた処が評判がよく、話が伝つて一時は商売みたいになつて了つたそうで近頃は余りやつていながら、それでもよく電話がかかつて来て頼まれるそうです。「金額も少いですし、儲かると云つたものではありませんが、頼まれた品物がよく仕上つてお客様に喜ばれると、こちらも嬉しくなって」と実益を兼ねた趣味のようです。函館生れの函館育ち。

(吉田)

【慶弔】

○三興電機KK石村社長御長
男吉郎君(20才)病氣の為7
月19日急逝されました。○谷電気工業所(森)村上勝正君(21才)は8月
19日作業中感電死されました。○下山電気商会柳谷光則君(17才)交通事故により
9月20日急死されました。○北斗電気KK創立四拾周年記念式典が9月3日
駅前五島軒で催されました。○原田電気商会原田治助氏3ヶ月前より病氣入院
療養中です。

◎私の経歴◎

【井上電気】

昭和2年19才学校卒業と同時に大きな希望にもえつつ秋田市の親をはじめはなれ川崎市の日本钢管KK電気課に入社いたしました。私は事務所勤務でしたが、3ヶ月間は毎日毎日現場員の使用材料運搬の手伝いで約500米程はなれた倉庫へ「トロツコ」をおして行って各現場へ持つて行くのが仕事でした。

かえつて来ると11時ちょっと前で今度は食堂に行き各先輩の「ベントウ」を机の上に並べて御茶を入れて午前中はOKでした。午后からは事務所で設計図面や日報を書き課長の許に報告の上明日の作業命令を受けそれから現場実習に行くのが日課でした。3ヶ月間は大学出も同様の日課を

させられ次の新入社員に受けつぐのが社風でした。2ヶ月後に新入社員がありましたのでようやく「トロツコ」おじは卒業し現場実習のみとなりはじめて電気屋らしい仕事にありつけました。日本钢管に9年勤務し風のふくま日本電気或は沖電気と歩き廻り最後に東芝マツダ支社川崎工場に勤務いたし本土初「空襲」の時に会社の屋上より見物しておりました所、米軍機とわかり驚いて「防空ごう」

にはいりました所、課長殿にどうぞお目玉をいただき閉口した事もありました。何にしろ田舎育ちの上、血のけの多い頃でしたので大変なものでした。

昭和17年東芝勤務中、海軍技術部に徴用され第四艦隊「トラック島」に1年契約で勤務いたしました所、終戦迄南洋群島を生死をかけて見学させられました。終戦の年、南洋ボケと栄養失調をおみやげに内地にかへりました。其のためか今日でも体重わずか13歳以下の「スマート」な身体となつております。内地にかへりまして病院生活、東京の兄姉を色々とさがしましたが見当らずにおりましたが北海道に兄がいる事がわかり病院を出され、初めて北海道の現在地へ來たわけです。

当地に来ました所三井木材電気部に日給2円50銭で入社いたしましたが、後に物価高のため月4百円位に昇給されました。当時は物資がないために、会社では午后から野草取り時間が2時間位あり附近の野山に出かけた事など、今にして考えれば面白い想出となつております。其上会社の空地を利用して従業員に割り当て、食糧生産させた事もあり、今日の生活から考えますと、何れもわすれがたい過去となりました。其後閉社となり北日本電建竹村氏のもとに働き工事業者の「イロハ」を習いおぼえて今日にいたつた次第です。ぶりかえつて見ますと、今はなき独裁者竹村氏の行動を深く想いおこし学ぶべき事の多かりし事に感謝いたしております。今日業者となり毎日御客様と接し自分の不徳の多き事を恥じると共に人間社会の良き人間となる事を願いたしております。

●編集後記●

少し遅れましたが第5号をお届け致します。(1)当初江差地区の皆様を訪問する予定でしたが、工藤、横田、私の3人が8月21日函館を朝出発した所、強風波浪洪水注意特報の出る荒天、全線不通のため、木古内駅で下車、急遽木古内の皆様に雨の中を集つていただき取材に支障をきたさぬ様努力致しました。当夜遅く函館行がやっと開通し3人無事帰宅することが出来ました。紙上を借り江差の皆様にはお詫びを、木古内の皆様にはお礼を申し上げます。

(2)編集会議で取材方針を統一決定し、皆様に原稿或は取材をお願いに行くのですが、気軽に紙面上に御登場して下さい。私共は皆様を順に万遍無く訪問致したいと思つております。号を重ね、後々になつて此のいなづまを改めて読み返しても興味がある様に創つて行きたいと思つております。皆様の絶大なる御協力をお願いすると共に、皆様に愛されるものに育つて行きたい所存です。

(荒井)